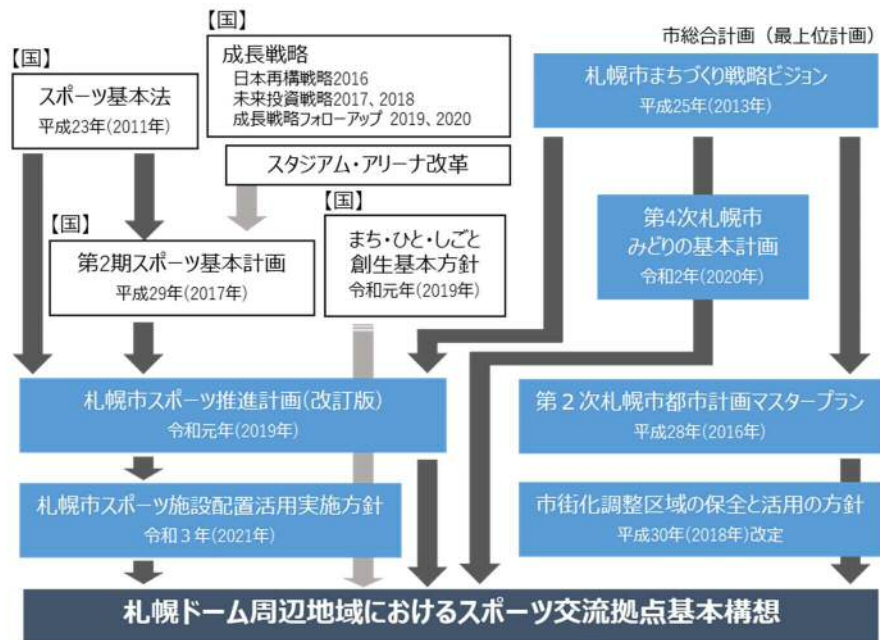


スポーツ交流拠点について

関連する札幌市の行政計画【本書P8〜】



第2次札幌市都市計画マスタープランにおける「札幌ドーム周辺」の記載

スポーツや集客交流産業の振興に関わる拠点性を高めるため、多様なイベントの開催や、札幌ドームと相乗効果が期待できる多様な施設の立地など、周辺を含めた更なる活用を図ります。

基本構想策定の背景【本書P1、19〜20、30】

(1) 札幌市のスポーツ政策における要点整理

- 要点①: スポーツ/ウィンタースポーツ実施率の向上
- 要点②: 健康寿命の延伸
- 要点③: スポーツ施設のアクセシビリティの向上
- 要点④: アスリートやスポーツをささえる人材の育成
- 要点⑤: 持続可能な施設環境の整備と施設配置
- 要点⑥: スポーツに親しめる機会の確保
- 要点⑦: 継続的な国際大会等開催のための環境整備
- 要点⑧: 民間活力の活用

(2) 高次機能交流拠点である「札幌ドーム周辺地域」の整備に係る検討事項

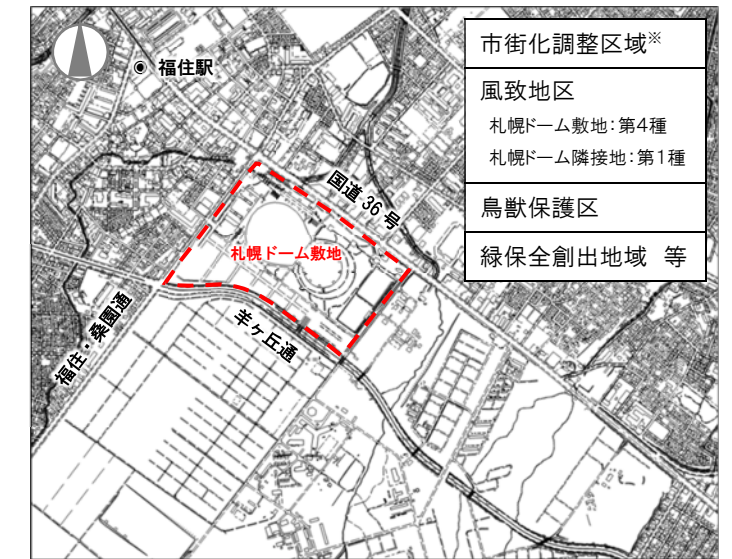
- 検討事項①: 札幌ドームと相乗効果が期待できる施設の立地による拠点性向上
- 検討事項②: 高次機能交流拠点としての機能性を高めるにあたってのアクセシビリティの向上
- 検討事項③: 周辺に存在する豊かなみどりを活用できる環境づくり



(1)(2)の要点・検討事項を踏まえた方策として、札幌ドームを中心としたスポーツや集客交流産業の振興などに関わる拠点性および札幌の魅力と活力の向上を先導するため、スポーツを軸とした「スポーツ交流拠点」の整備を検討

計画候補地の位置【本書P21〜】

計画候補地は「札幌ドーム」の敷地及び必要に応じて隣接地(拠点を形成する上での土地の連続性を考慮して「国道36号」と「羊ヶ丘通」に挟まれたその延長線上の範囲)を活用することを想定しており、詳細な範囲については導入機能の検討と周辺施設との連携等を踏まえ今後検討を行っていく。



※市街化を抑制する区域であり、原則として都市計画法で認められるものしか建てられない。

スポーツ交流拠点の目的【本書P31】

- 「みる」スポーツ施設として広く市民に親しまれている札幌ドームを核とし、「する」「ささえる」機能をより充実させ、市民誰もがライフステージ等に応じたスポーツに親しめる機会を確保
- 健康促進活動の場の整備による日常生活へのスポーツの位置づけと、スポーツによる健康や生きがいを得ることにより、健康づくりに寄与する。
- 札幌ドームとの相乗効果を生み出せる様々な機能を配置することで、札幌ドームを核とした官民連携の新たな公益を発現する。

- ▶ 多世代・多様な市民におけるスポーツの振興
- ▶ スポーツを通じた健康寿命の延伸
- ▶ 拠点性の向上による経済・まちの活性化

スポーツ交流拠点の在り方

基本理念と整備コンセプト【本書P35〜36】

- 基本理念 1. 自分にあったスポーツの楽しみ方に出会える機会の提供
 - ・新たな「みる」スポーツ機能や「する」スポーツ機能等の整備による、「する」「みる」「ささえる」といった様々なスポーツにふれる機会の提供
 - ・障がいの有無に関わらず気軽にスポーツに参加できる機能の導入や、産学官連携によるスポーツ医学への取組等により、市民のスポーツ振興や健康づくりへの寄与

基本理念 2. アスリートの発掘・強化とスポーツをささえる人材の育成

- ・子ども向けのスポーツ機能導入や、障がい者スポーツの利用も見込んだ設計・運用等により、子どもや障がい者等の利用を高めて競技人口を拡大し、アスリートの発掘・強化の土台づくりへの寄与
- ・アスリートのセカンドキャリア支援等の機能導入による、スポーツを「ささえる」人材の育成

基本理念 3. 施設集約と拠点性向上による経済・まちの活性化

- ・施設の集約化と機能連携や、多様なイベント興行が可能な環境整備による、稼働率・収益性の向上
- ・多くの利用者が1日中楽しめる滞留機能や便利施設等を配置することによる、拠点周辺も含めた経済・まちの活性化

基本理念 4. 守り受け継がれてきた地域資源の活用

- ・豊かな自然を介した学びや交流機能の導入による地域資源の活用
- ・スノーアクティビティ等の雪に触れる機会の創出によるウインタースポーツへの関心向上と裾野拡大
- ・景観や環境に配慮し、周辺環境を活用した施設計画

拠点整備の基本方針【本書P34、36～、41】

スポーツ交流拠点における「する」「みる」「ささえる」機能を持った以下の施設について、4つの基本理念を実現するための基本方針を定める。

整備にあたっては、「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針」に基づき、老朽化したスポーツ施設の集約等、効率的・効果的な配置・運用や、障がい者スポーツ機能の導入等による共生社会の実現に向けたスポーツ環境、民間活力の導入等を検討する。

(1) 札幌ドーム

- ・多目的市民利用施設としての能力、可能性を最大限発揮させるため、アマチュアスポーツ等の開催支援や、多様なイベント等に対応するための機能拡充による活用推進を検討

(2) アリーナ 〈他都市の事例：ステイブルズ・センター(米国)〉

- ・主にプロスポーツの試合やイベント興行等に活用するための「みる」スポーツ施設として、アリーナの整備を検討
- ・札幌ドームとの差別化および緊密な連携・協業による相乗効果の発揮と、スポーツや集客交流産業の振興へとつながるにぎわいの創出を目指す。

(3) 屋内・屋外スポーツ施設 〈他都市の事例：熊谷ラグビー場〉

- ・年齢や障がいの有無に関わらず利用可能な屋内・屋外スポーツ施設の整備について、周辺スポーツ施設等との集約化・機能の複合化、アリーナとの併設等により、効率的な整備・運用を検討
- ・多様性のあるスポーツ環境の整備による、スポーツに参画できる場の創設を検討

(4) にぎわい施設 〈他都市の事例：MURASAKI PARK TOKYO)〉

- ・札幌ドームやアリーナとの相乗効果による交流拠点としてのにぎわい創出等に寄与する多様な施設の整備を検討
- ・幅広い世代に拠点が活用されるよう、スポーツを「みる」「する」「ささえる」様々な機能を集積し、相乗的に集客交流効果を高めることや、スポーツを中心としたまちづくりの中核となる拠点形成を目指す。

(5) その他の機能・施設

〈他都市の事例：坂道もらくらくウォーキング教室〉

- ・「みる」「する」「ささえる」様々な機能を補完する施設や、拠点性の向上・補完する機能について検討
- ・スポーツ交流拠点として、周辺に広がる豊かな自然環境等にスポーツを通じてふれあうことや、スポーツによる健康づくりを補完する機能、アクセス機能の向上など、スポーツが持つ様々な力を発揮できる環境整備を目指す。
- ・スポーツ・医療の産学官連携や、トップアスリートの活動拠点の誘致等による「ささえる」機能の拡充や、国際競技力向上を目指す。

〈他都市の施設・機能の事例〉



ステイブルズ・センター(米国)



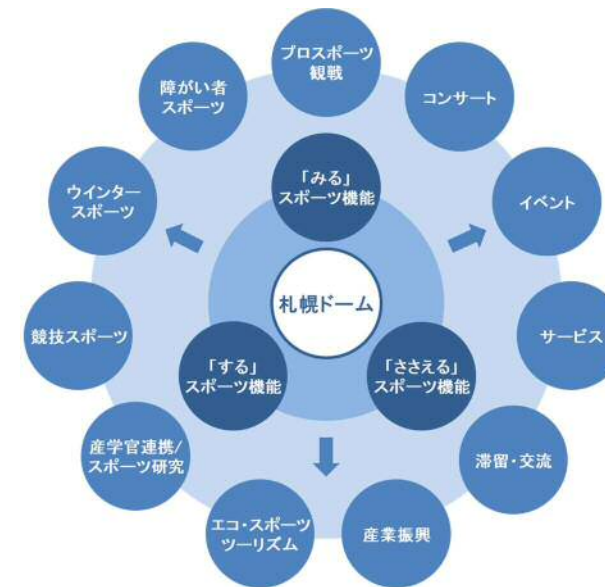
熊谷ラグビー場



MURASAKI PARK TOKYO



坂道もらくらくウォーキング教室



2030年冬季オリパラ時の活用案

- ・札幌ドームを開閉式会場とし、アイスホッケー会場やメダルプラザ[※]等のにぎわい会場として活用することで、大会の象徴となる場にしていけるとともに、レガシーとして大会の記憶をつなぐ場としていくことを検討

※冬季オリパラにおいて、各競技のメダリストに対するメダルセレモニーを行うための会場であり、メダルセレモニー以外の時間帯でも、各競技会場で行われる試合の生中継や、コンサート・文化プログラムといった多様なイベントが常に行われる。

期待される効果【P42～】

① 誰もがスポーツにふれられる機会の創出

② スポーツを通じた健康づくり

③ 障がい者スポーツ活動の場の拡充

④ アスリートや指導者の輩出

⑤ 施設の総量適正化と機能向上

⑥ 地元への愛着の醸成と魅力発信

⑦ スポーツ施設のプロフィットセンター[※]化

⑧ 札幌ドームの活性化

⑨ 地域資源の発見や新たな活用創出

⑩ 多機能・集約化による経済・まちの活性化

※企業等において、稼げのある部門のことを言うが、ここではにぎわいの創出等も含めて、投資以上の効果を地域にもたらす施設という意味を含む。